

千厩 4回戦久慈高校との熱戦を制し準々決勝へ

4回戦(7/18) 千厩高校 VS 久慈高校 4-1 勝利!! 12年ぶりのベスト8進出

千葉(千厩)衝撃三振ショー

延長も強気 23K金字塔



千厩 久慈 切れのある直球で延長13回を投げきり、1試合最多の三振の大会記録をマークした千厩の千葉 花巻

【花巻】
7/4 四回戦
千厩 000 000 000
久慈 000 000 000
000 4 | 1

(延長十三回)
(千) 千葉 金野 全野
(久) 高野 中野 伊藤
回遠藤優(千) 仲道(久)
回小山将2、及川、阿部(千)

【評】千厩が延長十三回の熱戦を制した。0-0で迎えた延長十三回、2死一、二塁で、阿部が二塁打を打ち2点を先制。続く遠藤優が三塁打を放つなど、この回で計4点を奪った。先発の千葉は1試合の大会記録となる23三振を奪い1失点完投した。

久慈は、延長十回に無死満塁としたが得点を奪えず、十三回に1点を返したが及ばなかった。

試合終了を告げる最後のアウトを23個目三振で取った。自らの思い切り投げ込み、3回戦で更新し最速を叩き上回る142を千厩の千葉が2年ぶりに達成した。ガッツポーズし喜びを表現した。立ち上がりから直球はつなげ、上げ、決勝のライオンに苦のタイミングは合点だった。四回は「今大会で、久慈上相手をこらしめ、23三振を奪った。風邪をこらして37度まで熱があ

いなので、負けたくないという思いで、投げた。三振は、延長十回の無死満塁でも強気だと、歴史を塗り替えてほしい。三振は、延長十回の無死満塁でも強気だと、歴史を塗り替えてほしい。三振は、延長十回の無死満塁でも強気だと、歴史を塗り替えてほしい。

千厩高等学校硬式野球部		
投	村上周太郎	③
捕	金野 大成	②
一	遠藤 優希	③
二	白石真太郎	③
三	及川 喜晏	③
遊	◎ 阿部 直哉	③
左	志田 翔虎	③
中	星 渉	③
右	小山 将也	③
控	小山 颯斗	③
控	千葉 瑛太	②
控	米倉 真	③
控	熊谷 友裕	③
控	熊谷康太郎	③
控	佐々木康太	③
控	佐藤 樹	②
控	遠藤 航	②
控	佐々木拓斗	②
控	西村 勇飛	②
控	佐々木永遠	②

この記事(平成28年7月19日岩手日報)は、岩手日報社の許諾を得て転載しています。

Team	1	2	3	4	5	6	7	8	9
千厩	0	0	0	0	0	0	0	0	0
久慈	0	0	0	0	0	0	0	0	0

	10	11	12	13	R
千厩	0	0	0	4	4
久慈	0	0	0	1	1



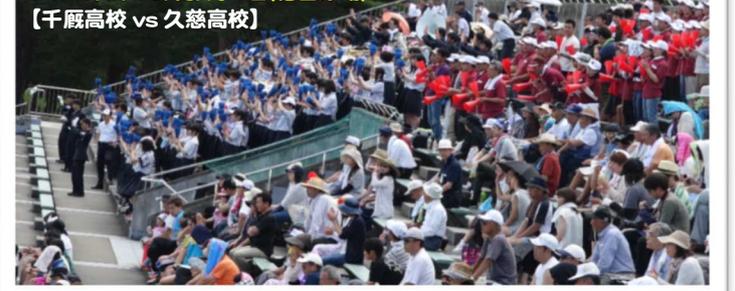
13回の熱闘に終止符!! 両チームとも全力を尽くした好ゲームでした。感動と勇気をありがとう。両校の選手と応援団に心より拍手を贈ります。2016/7/18/月/海の日(花巻球場)【千厩高校 vs 久慈高校】

TEAM	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	R	H	E
千厩	0	0	0	4						4	11	1	1
久慈	0	0	0	1						1	4	1	0

TN	1	2	3	4	5	6	7	8	9
千厩	1	4	7	8	9	6	2	3	5
久慈	1	4	7	8	9	6	2	3	5

PL	1B	2B	3B	千厩	久慈
中馬	仲高	八伊	重蔵	川原	藤田
慈居	内道	柳枝	藤井	柴	

統率のとれた1・2学年による応援(観客の皆様から賛辞の声を多数頂戴しました。) 2016/7/18/月/海の日(花巻球場)【千厩高校 vs 久慈高校】



千葉(千厩)快投 延長13回23K

1試合の大会記録

大会記録となる試合初回の直球から1本締めくり、小山がファーストアウトの千葉大18日、花巻市、花巻球場

この記事(平成28年7月19日岩手日報)は、岩手日報社の許諾を得て転載しています。

四回戦 千厩高校 vs 久慈高校

【大会総評】7月8日から「第98回全国高等学校野球選手権岩手大会」が始まりました。本校野球部は、9日(土)一関高専、15日(金)宮古工業、18日(月)久慈高校、そして21日(木)に準々決勝で一関工業と対戦しました。雨上がりの中、そして暑い中、千高生の心意気を県下に知らしめたのは、皆さんの応援でした。統率のとれた応援では、何とか勝たせたいという皆さんの気持ちが聴くもの胸を打ちました。県内外を問わず、球場に詰めかけた高校野球ファンからは、「すばらしい」、「美しい」という賞賛の声をたくさん戴きました。「人は意気に感ず」という言葉もあるように、皆さんの一途に取り組むその姿と情熱は、本校と縁もゆかりもない人々の心にまでも届いたのです。生徒諸君はもちろんのこと、暑い中、応援の企画、バスの手配、引率、具合を悪くした生徒の救護、そして保護者との対応にあたられた先生方に心より感謝申し上げます。一方、準々決勝で敗れたとはいえ、本校野球部の最後まで勝利に向かってあきらめずに戦うそのひたむきさは、私たちに何事にも代えがたい感動と勇気を与えてくれました。68チームのうち、最後に勝ち上がるのは、たった1校のみです。67校が涙をのむのです。しかし、野球に対する夢や志をもって、これまで努力してきたからこそ、一人ひとりの進歩があり、成長があり、それぞれの可能性が大きく広がり、チームとしての成長があったのです。また、この大会を通して、夢を実現するのは決して不可能ではないという実感をもつことができたと思います。皆さんは確実に進歩・成長しているのです。やればできるのです。自信をもって未来に挑んでください。